

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:令和4年 2月 25日

事業所名:尼崎市立たじかの園

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	<ul style="list-style-type: none"> 個々の身体機能に合わせた補装具を使用するため、椅子、歩行器などの置き場が少ないが、整理整頓を心がけている。 支援の内容、お子さんの状況により個室の使用が望ましい場合もあるが、確保できないことがある。職員間で、部屋の調整を行うなど工夫している。 	確保されている 17 どちらともいえない 2 ・広いスペースだと思う。ただ、廊下に歩行器などが置いているので狭くなっている。 ・仕方ないと思うが、廊下が狭い。	<ul style="list-style-type: none"> スペース的に難しい面はあるが、歩行器などは、使用するものだけ置くことや整理整頓を心がけ、スペース確保に努める。 声掛け等で、スムーズに廊下の通行ができるように配慮する。
	2 職員の適切な配置	<ul style="list-style-type: none"> 作業療法士、言語聴覚士の産休代替職員を繰り返し募集しているが、確保できなかった。 基準は満たしているが、支援の内容により不足していると感じることはある。職員間でカバーし合い工夫しながら、療育や行事が行えるよう努めている。 	配置されている 10 どちらともいえない 6 配置されていない 3 ・リハの先生を増員して、しっかりリハを受けられるようにしていただきたい。 ・訓練の回数にバラつきがあり少なくなっているのので、セラピストの人数を増やしてほしい。 ・OTとSTを増やしてほしい。(補充されていない)	<ul style="list-style-type: none"> 産休代替職員の募集は引き続き行いながら、職員間でカバーし合い、支援の充実に努める。 育児休業中の職員の復帰により、セラピストの定数は確保はできる見込。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	<ul style="list-style-type: none"> 室内に段差がある、トイレが狭い等、使いづらさはある。スロープを置いたり、マンパワーで対応したりしている。 歩行可能児や注意転動のある児等への環境設定の難しさはあるが、場面に応じて工夫している。 見通しが立つよう視覚支援等工夫している。 	環境整備されている 18 どちらともいえない 1 PT室の手洗いが高くにあるので、大きくなってきた子どもを抱っこしての手洗いは大変。	<ul style="list-style-type: none"> 構造上難しい部分はあるが、引き続き設備整備に努める。 PT室の手洗いは、少しでも介助がしやすいよう自動水洗に変更する。 引き続き、足台を置くなど環境の工夫やマンパワーでの対応を行う。 歩行器等は、名前を書いたテープを貼るなど、わかりやすくしているが、スペースの関係でいつも同じ場所に置くことは難しい。担当間で場所を確認し、伝えられるようにしたい。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化は否めないが、業者委託による毎日の清掃、職員による大掃除及び毎日の環境消毒により、清潔に保てるよう努めている。 	確保されている 19 母子訓練の時に、リハビリで使用している歩行器などを使いたいが、どこにあるのか不明	
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	<ul style="list-style-type: none"> 園全体の年間目標について事業計画にあげ、係の仕事や行事などを通して実施、振り返りを行い次の計画につなげている。 個人の目標等については、人事評価を通して行っている。 園全体の業務については、日々の業務におわれ、不十分な時もある。 		
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	<ul style="list-style-type: none"> 実施していない。 		
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> 事業団内研修、園内全体研修、外部研修への参加、伝達研修等で確保されている。 一人一人に計画的に行えと、自分は何を期待されているのかもわかりやすい。 		<ul style="list-style-type: none"> それぞれの専門職間で、年間目標を決めて、研修を実施している。それ以外の研修については、個々の目標や園としての目的をふまえ、受講の意義を伝えられるようにしていく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に記入していただいた「たじかのっこシート」を基に、担任が聞き取りを行い、アセスメントを行っている。 園でのアセスメントに相談支援や関係機関からの情報を加え、チームでカンファレンスを行い、個別支援計画を作成している。 	(計画の作成に関して) 作成されている 19	
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ケースカンファレンスで、個別、集団各々の場面の様子を共有し、目標を話し合い、個別支援計画を作成している。 定期的カンファレンスだけでなく、お子さんの様子に変化があった時は、緊急のカンファレンスを行い、計画の変更を行っている。 	(具体的支援の内容に関して) 記載されている 19 ・時期設定も的確だと思う。	
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	<ul style="list-style-type: none"> 項目設定や具体的な支援内容の記載はできている。 		
	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> 担当者全員で計画を共有し、目標に沿った支援をすることを心がけている。 必要等あれば都度集まり、支援方法を検討し支援内容を適宜変更している。 	実施されている 17 どちらともいえない 2	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、懇談などを通して、支援内容について保護者へきちんと伝えるようにしていく。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	<ul style="list-style-type: none"> 行事などは、係が立案し、職員会議で検討、確認している。 日々の活動は、情報共有で検討、工夫している。 		
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での様子を聞き、環境設定、ホームエクササイズ提案を行っている。 長期休暇前には、どの様に過ごすか確認し、配慮の必要な家庭には関係機関と連携している。 		
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	<ul style="list-style-type: none"> 積み重ねを大切にしながら、子どもの発達、季節や行事に合わせて、活動を変化させている。 	工夫されている 17 どちらともいえない 2	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、プログラムの工夫を行うと同時に、活動の目的等の説明を丁寧に行っていく。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 開始前の配慮等については、朝礼で情報共有をしたり、朝礼後に担当者が集まって行っている。 業務、連絡調整に追われる。また、保育内容等の打ち合わせ時間の確保の難しさがある。 役割分担、内容についての打ち合わせは、できる範囲となっている。 		<ul style="list-style-type: none"> 伝達項目は、まとめて短時間に伝えるよう工夫をする。 打ち合わせについては、前日等可能な範囲で時間を調整する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供(続き)	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	・片づけをしながらや翌朝の朝礼等で情報共有を行うよう心がけているが、毎日の実施はできていない。 ・部門別会議でクラスの様子の状況等報告し、振り返りや情報の共有を行っている。		・職員朝礼、職員会議で伝達する内容を分け、できる限り情報共有の時間が作れるよう努力する。
	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	・日誌、カルテに様子の記載をしているが、一元化されていないので、他職種の記録を見ることは少ない。 ・記録を書く時間の確保が難しい。 ・一緒に支援したメンバーで、支援の内容について話すことや一緒に記録を書くことをしている。		・記録を容易にできる工夫はないか検討する。
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	・定期的なモニタリング、ケースカンファレンスにより、計画の見直しを行っている。		
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	・状況に応じて適切な職員が参加している。		
	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	・個別支援計画の共有や、電話、書面でのやり取りを行っている。		
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	・保護者を介して主治医に情報提供の依頼を行っている。 ・必要に応じ、管理医師から主治医に問い合わせ等行う。		
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	・移行先職員の見学受入れ、情報提供書を作成しそれを基にした引継ぎ、移行後はアフターフォローとして職員の訪問を実施し、情報共有に努めている。		
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	・行っていない。		
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	・利用者が関わる専門機関と積極的に連携をとっている。 ・研修があれば、紹介され、必要に応じ受講している。		
	7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	・オンラインでの交流を提案したが、交流先の環境が整っておらず、難しかった。 ・コロナ禍で実際に会って交流は難しいが、落ち着けば、積極的に交流の機会を検討していきたい。	提供されている 3 どちらともいえない 1 提供されていない 11 わからない 4 ・コロナ禍というも原因 ・コロナ禍もあるが、他の子たちとの交流が増えると嬉しい	・コロナウイルス感染症が落ち着けば、積極的に交流の機会を持ちたい。 ・コロナ禍であってもできる交流を検討したい。 ・今後は、保育所交流の対象児以外の保護者にも、交流について伝える機会を作っていく。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	・行っていない。 ・グループハウスには、敬老の日のお祝い作品を届ける等行った。		
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	・契約時に説明する他、不明点があればその都度説明している。	説明されている 19	
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	・個別に30~40分の時間をとり、説明している。	説明されている 19 ・丁寧に説明してもらえた。	
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	・ペアレントトレーニングは行っていないが、ミニ講座や保護者勉強会等を実施している。 ・個別に対応していることも多い。	実施されている 13 どちらともいえない 2 わからない 3 ルールの守らせ方について丁寧な指導をもらっている。勉強会もいつも楽しみにしているので、継続してほしい。	・さらにミニ講座、保護者勉強会が充実するよう工夫していく。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	・親子登園の特徴を生かし、日々のかかわりの中でコミュニケーションを大切に、保護者と状況や課題を共有するよう努めている。	徹底されている 18 どちらともいえない 1 ・プロの目で捉えた状況や成長を伝えてくれるのが嬉しい ・客観的に伝えてもらえると、子どもの成長を改めて感じることができる。 ・何気なく話したことで後日「どうでしたか?」と聞いてくれて嬉しい	
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	・保護者に悩み等がある場合は、懇談を行い、その場で助言したりしている。また、担当者間で共有し、対応を検討している。	実施されている 17 どちらともいえない 1 ・栄養・摂食指導が丁寧でありがたい ・困っていることや疑問に思っていることをその都度話している	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援(続き)	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	・父母会が開催しやすい環境づくりをサポートしている。	支援されている 11 どちらともいえない 2 支援されていない 1 わからない 4 ・もっと保護者同士で悩みごとやいろいろなお話ができる時間を大切にしてほしい。特に、母子訓練の時など話しながら訓練しているとダメな雰囲気がある。	・給食時間に保護者だけで食事をとっていただく時間があったが、今はコロナ禍で難しくなっている。コロナ禍では、色々な場面で保護者同士が話せる時間を作っていく。 ・母子訓練の時間の使い方は、今後周知していく。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	・苦情受付の体制はある。園への意見を聞く会での意見や父母の会からの要望について、職員全体で検討し、保護者へ返答している。 ・苦情を全体で共有し、個々がその件について考える機会を作り対応を検討し、保護者へ返答した。	対応されている 16 どちらともいえない 2 わからない 1 ・人員や設備、タイムスケジュール的に厳しい部分もあるものと理解している。	
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	・個々の状況に合わせて、カードやサイン、スイッチ等の使用をしている。 ・保護者には、書面での伝達等、わかりやすく伝える工夫をしている。	配慮されている 17 どちらともいえない 1	
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	・月に1回園だより「たじかのっこ」を発行している。 ・年度ごとに、園しおり、年間行事予定を配布。 ・緊急時は、ミマモルメでお知らせできる体制をとっている。	発信されている 17 わからない 1	
10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報の持ち出しや写真等の取り扱いルールを作っており、適切に対応している。	されている 18		
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	・マニュアルを作成し、配布や貼り出しをし周知している。	周知徹底されている 17 わからない 1 ・全国で実際に起きた災害や事件の対応事例を紹介してもらえると、実感がより湧くと思う。	・ミニ講座や勉強会だけでなく朝礼等で、事例を含めて詳しく伝えられるようにする。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	・月に1回避難訓練が行われているが、非常事態時のための訓練は、もう少し細かに行った方が良いと思う。 ・人工呼吸器を使用している児童の、上階への避難訓練を行った。	実施されている 18 ・全国で実際に起きた災害や事件の対応事例を紹介してもらえると、実感がより湧くと思う。	・ミニ講座や勉強会だけでなく朝礼等で、事例を含めて詳しく伝えられるようにする。 ・避難訓練を実施する時間を見直す。 ・行った訓練の振り返りを行い、非常災害の発生時に活かせるよう努める。
	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	・年2回の研修を行い、虐待防止について考える機会を持っている。		・引き続き研修等を通して、職員の理解を深める機会を持ち、意識を高めていけるよう努める。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	・身体拘束については、担当者のカンファレンスで検討し、保護者に説明、了解を得ている。		
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	・入園前及び入園後も定期的に聞き取り、必要に応じて主治医より指示書を受け、給食等の対応している。 ・情報共有を徹底し、朝礼時の確認、食器の色分けなど間違いがないように丁寧に対応している。		
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	・ヒヤリハットや事故については共有できているが、事例集の作成までには至っていない。		・ヒヤリハットの種類、内容に分けての保管等で、事例集となるような工夫をしていく。